

(社) 日本原子力学会 標準委員会 リスク専門部会
第 86 回 レベル 1PRA 分科会 議事録

1. 日時 第 86 回 : 2018 年 6 月 18 日 (月) 13:30~16:00

2. 場所 電力中央研究所大手町地区 711 会議室

3. 出席者

(出席委員) 高田主査, 桐本副主査, 橋本幹事, 佐藤 (吉), 岡野, 石田, 三浦 (喜多代理),
野村 (田中代理), 佐藤 (輝), 黒岩, 藤井 (小森代理), 谷口 (12 名)
(常時参加者) 濱口, 友澤, 磯崎 (根岸代理), 塩田候補 (4 名)
(傍聴者) 佐藤 (遼) (1 名)

(敬称略)

4. 配布資料

- P4SC-86-1 第 85 回 L1PRA 分科会議事録 (案)
- P4SC-86-2 人事について
- P4SC-86-3-1 内の事象 L1PRA 標準 議論検討用
- P4SC-86-3-2 適用可能な手順及び実施例 議論検討用
- P4SC-86-3-3 内の事象 L1PRA 標準 英文版 (Draft for Review)

5. 議事内容

(1) 出席者/資料確認

委員 12 名が出席しており, 分科会成立に必要な定足数を満足している旨が報告された。
また, 配布された資料が確認された。

(2) 第 85 回議事録の確認

資料 P4SC-86-1 を用いて第 85 回分科会の議事録を確認した。コメントがあれば連絡いただくこととし, 特になければこのまま正式版とすることとなった。

(3) 人事について

資料 P4SC-86-2 により, 高田主査 (JAEA), 岡野委員 (JAEA), 谷口委員 (日立 GE) の所属変更が報告され, 塩田常時参加者 (日立 GE) の登録が承認された。

(4) L1PRA 標準統合性能化検討

資料 P4SC-86-3-1 から資料 P4SC-86-3-3 により, L1PRA 標準統合性能化の箇条構成について

て検討を行なった。前回議論の反映を確認し、主な議論は以下のとおり。

- ・全般

- － 損傷判定条件、事故シーケンス分析、システム解析などでは、具体的な条件・手法を前提としているが、そもそも PRA としての基盤技術となっている面もあることから無理に一般化せず、規定振りとして次のような構成とする。

- ・ 第一義として基本的に必要となる要件を規定。
- ・ その適用可能な条件・手法としてベースとなる条件・手法を規定。
- ・ 適用の除外に関する要件を規定。

- － 用語として、「方法」(manner)・「手法」(method)・「技法」(technique)などが考えられ、FMEA・HAZOP・ET・FT などの信頼性評価に対しては、JIS 等において「技法」(technique)が用いられている。一方、PRA の中では「手法」(method)が比較的用いられているとも考えられ、仮決めとして「手法」(method)としてみるが、適切な用語として PRA 標準全体としても調整していくことが必要であり、今後とも検討していく。

- － 「注記」と「注」に関して標準策定の JIS では、文章全体への規定ではない補足事項などを「注記」、語句等の文章の一部に対する規定ではない補足事項などを「注」と定義しており、「注」の使用は最小限とする要求がある。これに基づき、「注記」と「注」(脚注)の使用について整理していく。

- ・ 箇条 8 成功基準の設定

- － 成功基準において安全機能を同定するのは、これまでの国内検討の結果であり、今後米国等との差異の一つとして議論されることもあろう。

- － 損傷判定条件は、使用するコード・モデルの不確実さなどにも影響されるため、最確推定をベースとする場合には解析手法と判定条件とを合わせて考慮する必要があるが、現状の規定はこれらも勘案し想定される解析手法とそれにバランスする判定条件として設定していると考えられることから、規定振りとしては現状をベースとし、また保守的な解析条件の許容部分は特に要しないと考えられる。このような経緯を解説としていくべき。

- ・ 箇条 9 事故シーケンスの分析

- － 以前に指摘のあったマルチユニットの扱いについては、現状で研究開発段階にあり、要件・手法として明確化することは難しいと考えられることから、今後の課題として整理する。

- ・ 箇条 10 システム解析

- － 全体として米国標準と整合する内容であるが、米国標準では機器の修復に対して原則として禁止する条項があり、扱いについては関連する規定とも合わせてさらに検討していく。また、箇条書き部分等でむしろ直訳に近い記載などもあり、必要により調整していく。

(5) スケジュール, その他

次回分科会は7月10日PM, 次々回分科会は8月27日PMでの予定とする。

また, 制定となった停止時PRA標準改訂版に記載する分科会委員, 常時参加者の名簿を確認しておくこととなった。転載許諾については学会事務局まで報告済みであり, 進捗について分科会としても適宜協力していく。

以上